

昭和十二年七月七日會議議案

秘

昭和十二年七月七日	決議
昭和十二年七月十四日	公布
勅令第 三二五 號	

奏任文官特別任用令中改正ノ件 参照添附

勅令第

號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス  
特許局理事官ノ次ニ貿易局理事官ヲ加  
フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○奏任文官特別任用令 勅令第百六十號

左ニ掲クル奏任文官ハ五年以上判任以上ノ官  
ニ在職シテ行政事務ニ從事シ判任官五級俸以  
上ノ俸給ヲ受ケタル者ヨリ高等試験委員ノ銓  
衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

(中略)

特許局理事官

高等試験委員

(下略)

附則

本局ハ公衆ノ利益ヲ爲スルニシテ

○貿易局理事官ノ官等俸給案

官等 高等官四等乃至八等

俸給 年俸三千四百圓乃至千五十圓

年功ニ依リ特ニ高等官三等ニ陞叙シ年

額六百圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

商工省官制中改正ノ件外二件審査報告

秘

今回御諮詢ノ商工省官制中改正ノ件貿易局官制及奏任文官特別任用令中改正ノ件ニ關シ本官等審査委員ヲ命ゼラレ本月二日委員會ヲ開キテ國務大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キ以テ之

が査覈ヲ遂ゲタリ

當局ノ説明ニ依レバ我國ノ對外貿易ニ關シテハ從前商工省貿易局ニ於テ其ノ事務ヲ主管シ其ノ伸展ノ爲メ常ニ最善ノ措置ヲ怠ラザリシト雖最近内外各般ノ經濟情勢ニ鑑ミ一層強固

ナル施設ヲ必要トスルニ到レリ即チ貿易ノ調  
整ニ付テハ之ヲ關係當業者ノ自治的統制ノミ  
ニ委セズ政府が其ノ間ニ介入シテ之ヲ誘導ス  
ルノ要アリ又國際收支ノ均衡ヲ善クシ若クハ  
國內工業原料ノ輸入元ノ偏倚ヲ避クル爲メ適  
當ナル輸入統制ヲ行フノ要アリ更ニ貿易ノ振  
興ニ付テハ各種ノ手段ニ頼リテ益々新規市場  
ノ開拓及新興商品ノ進出ヲ計ルト共ニ國內産  
業ヲ產品ノ輸出ニ適合セシムベク之ニ剴切ナ  
ル指導ヲ加フルノ要アリ其ノ他精細ナル調査

ニ基キテ周到ナル計畫ヲ立テ出來得ル限りノ  
措置ヲ講ジテ積極的ニ我が對外貿易ノ全面的  
伸展ヲ企圖セザルベカラズ之が爲メニハ常ニ  
内外各方面ニ接觸シテ其ノ情況ヲ詳悉シ且其  
ノ間ノ協調ヲ保持スルノ要アルハ勿論ニシテ  
國內關係各廳トノ連絡ヲ善クスルノ外特ニ在  
外公館ニ配置セラレタル商務職員トノ交渉ヲ  
緊密ニセザルベカラザルニ由リ別件ノ勅令ヲ  
以テ右商務職員ハ涉外事項ニ關スルモノヲ除  
クノ外貿易ニ關スル事務ニ付テハ外務大臣ヲ

經由シテ商工大臣ノ指揮監督ヲ受クベキ旨ヲ  
定メントス而シテ貿易局所掌ノ事務ハ逐年其  
ノ數量ヲ増加シ其ノ内容モ亦複雑トナリ之ヲ  
數年前ニ比較スレバ實ニ著大ナル懸隔アリ當  
局ニ於テハ斯クノ如キ貿易ニ關スル行政ノ躍  
進ニ對シ從前ノ機構ヲ以テシテハ到底其ノ效  
果ヲ全クスルコト能ハザルヲ念ヒ之ヲ擴大シ  
テ其ノ機能ヲ發揮スルニ遺憾ナカラシムル爲  
メ商工省ノ内局タル貿易局ヲ改メテ外局タル  
貿易局ト爲スノ緊要ナルヲ認メ茲ニ此ノ趣旨

ヲ主眼トスル本案三件ノ制定ヲ奏請シタルモ  
ノナリ

今本案三件ノ要旨ヲ摘録スレバ左ノ如シ

### 第一 商工省官制中改正ノ件

前述ノ如ク商工省ノ外局タル貿易局ヲ新ニ  
設置スルニ伴ヒ同省ノ内局タル從前ノ貿易  
局ハ之ヲ廢止スベキニ由リ本件ヲ以テ商工  
省官制中從前ノ貿易局ニ關スル條項第五條  
及第七條ノ二ヲ改正又ハ削除シ從前ノ貿  
易局ノ局長ヲ廢官トスルノ外同局ノ局員夕

リシ書記官、事務官、技師、屬及技手各若干人ヲ  
減員ス(第八條、第九條、第十條、第十三條、第十七條、第十七條、第十七條、第十七條)尤モ  
鑛山災害ノ防止ニ關スル事務ヲ一層充實ス  
ル爲メ同省鑛山局ニ配置スベキ技師及技手  
各若干人ヲ此ノ際増員スルノ必要アリ本件  
ノ改正規定ニ掲ゲタル其ノ定員ハ右ノ増減  
ヲ行ヒタルモノナリ

## 第二 貿易局官制

本件ハ新ニ設置スル貿易局ノ組織權限ヲ定  
ムルモノニシテ貿易局ハ商工大臣ノ管理ニ

同局ニハ從前ノ貿易局ノ職員ヨリ増加シテ  
長官(勅)部長(勅)二人並ニ奏任ノ書記官、事務官、  
統計官、理事官、技師及判任ノ屬、統計官補、技手  
各若干人ヲ置キ(條三)同局ニ庶務課及第一、第  
二ノ二部ヲ置キ各部ニ於テ夫夫貿易振興及  
貿易調整ニ關スル事務ヲ掌ラシメ(條三)從前  
ノ貿易局ニ於ケルト同ジク局務ニ參與セシ  
ムル爲メ參與ヲ置キ商工大臣ノ奏請ニ依リ  
關係各廳勅任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命

シ(條四)局務ヲ輔ケシムル爲メ顧問七人以内  
ヲ置キ商工大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル  
者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ジ其ノ本官ヲ  
有セザル者ニハ勅任官ノ待遇ヲ與フルコト  
トシ(條五)又商工大臣ニ於テ必要ト認ムル地  
ニ貿易事務所ヲ設ケ本局ノ事務ヲ分掌セシ  
ムルコトヲ得ルモノトシ(條六)長官以下ノ常  
務職員ノ職掌ヲ定ム(條七條乃乃至  
條十四條)此ノ新官制  
ノ施行ニ要スル經費ハ既ニ本年度歳出豫算  
ニ之ヲ計上シタリ

第三 奏任文官特別任用令中改正ノ件

前述ノ貿易局官制ニ依リ同局ニ新置スル理  
事官ハ其ノ職務ノ性質上奏任文官ノ普通任  
用ノ資格ナキモ多年在官シテ關係事務ニ從  
事シタル者ノ中ヨリモ之ヲ任用スルノ必要  
アルニ由リ本件ヲ以テ奏任文官特別任用令  
列記ノ諸官中ニ貿易局理事官ヲ追加シ同官  
ハ同令所定ノ官歴アル者ヨリ高等試験委員  
ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得ル  
モノト爲ス



按ズルニ我が對外貿易ヲ今後益々堅實ニ發展  
セシムルノ要アルハ言フ俟タズ之ガ爲メニハ  
内外各般ノ情勢ニ應ジテ適切ナル施設ヲ行ヒ  
我が貿易政策ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期セザルベ  
カラズシテ其ノ事務ハ特ニ重要且繁多ナルガ  
故ニ之ヲ主管スル行政部局ノ機構ヲ適當ニ擴  
大強化スル爲メ茲ニ従前ノ商工省ノ内局タル  
貿易局ヲ改メテ外局タル貿易局ト爲スノ措置  
ハ現在ノ事情ニ照シ將來ノ狀勢ニ察シ之ヲ是  
認スルヲ妨ゲズ此ノ改正ヲ主眼トスル本案ノ

三件ハ其ノ餘ノ附隨ノ事項ニ付テモ別ニ支障  
ノ廉ヲ認メズ但ダ此ノ貿易局ノ所管トスル外  
國貿易ニ關スル事務ハ固ヨリ外務省及在外公  
館ノ所掌ト極メテ密接ナル聯繫アルガ故ニ同  
局ニ於テ萬一此等ノ關係官廳トノ間ニ協調ヲ  
失フガ如キコトアラバ到底所期ノ目的ヲ達ス  
ルコト能ハザルベキニ由リ當局ニ於テハ深ク  
此ノ點ニ留意シ事務ノ圓滑ナル遂行ニ苟モ遺  
漏ナカラシムコトヲ希望セザルヲ得ズ但テ審査  
委員會ニ於テハ本案ノ三件ハ孰レモ原案ノ通

リ之ヲ可決セラレ然ルベキ旨此ノ希望事項ト  
共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ  
右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十二年七月三日

審査委員長

樞密顧問官侯爵黒田 長成

審査委員

樞密顧問官 河合 操

樞密顧問官男爵鈴木貫太郎

樞密顧問官子爵石井菊次郎

樞密顧問官 原 嘉道

樞密顧問官 南 弘

樞密顧問官 田中 隆三

樞密院議長男爵平沼騏一郎殿

委員會參考書類

三

六

七

秘

貿易局官制案外二件ニ關スル説明書（福壽院）

本邦ノ産業貿易政策ハ本邦産業貿易ノ特殊事情ニ基キ由來自由主義ヲ其ノ基調トシタルモ世界大戰後ノ不況打開ノ爲世界各國ガ採用セル自給自足の經濟政策ノ影響ヲ受ケ本邦産業貿易政策ノ基調ニモ相當ノ變化ヲ齎シタリ即政府自ラ種々ノ施設ヲ設ケ國內ニ於テハ生産及經營ノ合理化、技術ノ進歩ヲ指導勸奨スルト共ニ國外ニ於テハ世界市場開拓ノ爲積極的努力ヲ爲スヲ要スルニ至レリ。カクテ各國ノ自給自足主義ニ基ク經濟政策ハ益々普遍的トナリ強化セララルルニ至リタルモ世界不況ヲ打開スルニ至ラズ却ツテ益々世界市場ヲ狹隘化シ遂ニ一九三〇年後ノ世界恐慌ヲ惹起スルニ至リ各國中金本位ヲ停止スルモノ續出シ爲替低下ヲ競フガ如キ狀勢ヲ呈スルニ至レリ。如斯世界經濟ノ著シキ變化ニ伴ヒ貿易政策ハ更ニ一段ト純制強化ノ色彩ヲ濃厚ニシ輸入割當、輸入禁止、輸入許可及求償貿易制等ノ貿易制限措置ガ次々ニ採用セラ

ルニ至レルヲ以テ本邦貿易政策モ從來ノ單純ナル貿易伸張ノ政策ヨリ  
輸出統制政策ニ其ノ重點ヲ移行シ輸出統制ノ諸施設ヲ必要トスルニ至  
レリ。

世界各國並ニ本邦ノ貿易政策上ノ如上ノ趨勢ハ其ノ後依然トシテ繼續  
セラルルノミナラズ最近ニ於ケル國際間ノ政治經濟ノ諸情勢並ニ本邦  
經濟事情ノ變化ハ更ニ一層確固タル貿易政策ノ樹立實施ヲ要トスル  
ニ至レリ。

世界經濟界ノ變化ニ照應スル本邦貿易政策ノ變化ニ關スル上流ノ段階  
ハ商工省內ニ於ケル貿易關係施設ノ沿革的變遷ニ徴スルモ之ヲ擧取シ  
得ル處ニシテ即チ大正十年ニ商務局內ニ貿易通關課ヲ設置シ又大正十  
四年ニ貿易通關課ヲ貿易課ニ改メ且輸出組合法ヲ制定シタルハ世界大  
戰後ノ貿易伸張政策ヲ遂行センガ爲ニシテ昭和五年貿易課ヲ擴充シ貿  
易局ト爲シ又昭和九年輸出組合法ヲ改正シタルハ主トシテ世界各國ノ

貿易制限措置ニ對處センガ爲ニ外ナラズ。然ルニ最近ノ國際間ノ政治  
 經濟ノ騰情勢並ニ本邦經濟事情ノ變化ニ伴ヒ從來ノ如キ貿易伸長、輸  
 出統制ノ方策ヲ以テシテハ到底所期ノ效果ヲ期シ難ク更ニ強固ナル施  
 設方策ヲ必要トスルニ至レリ。即チ之ヲ貿易調整ノ方策ニ付キ考フル  
 ニ從來ノ如キ輸出組合ノ自治的統制ハ關係營業者間ノ利害ノ對立ヲ充  
 分調整シ得ズ却ツテ統制ノ實行ヲ困難ナラシメ國家ノ大局的利益ト相  
 容レザル場合モ起リ得ルヲ以テ政府ガ積極的ニ之ニ介入シ又國際收支  
 ノ均衡ヲ圖リ若ハ國內工業原料ノ輸入先ノ備荷<sup>カ</sup>狀態ヲ矯正スル爲メ  
 常ナル輸入統制ヲモ行フ要アリ。又通商上ノ難案件ノ解決ニ當リ政府  
 機關ノ新橋ニ依ル<sup>カ</sup>キ<sup>カ</sup>民間營業者若ハ団体間ニ於ケル折衝ニ依リ  
 問題ヲ調整ニ解決シ得ベキ場合極ノテ多キ最近ノ傾向ニ鑑ミルトキハ  
 此等營業者若ハ団体間ノ連絡調整ニ一層ノ力ヲ務ス要アルベシ。更ニ  
 又之ヲ邦品ノ海外販路開拓ノ方策ニ付キ考フルモ從來我國輸出品ハ總辦

工業品ヲ主トセルモ海外市場ニ於テ最モ激シキ制限ニ遭ヒツツアルハ  
織維工業品ナルニモ雖ミレバ本邦貿易ノ市場開拓策ハ所謂新興商品例  
之、化學工業品及機械等ノ販路ヲ開拓シ、國內産業ヲ輸出産業化ス  
ル爲適當ナル指導ヲ爲シ又海外販路開拓ノ諸施設モ更ニ積極的ニ之ヲ  
行ハザルベカラズ。  
而シテ今後採用スベキ本邦貿易ノ諸方策ハ單純ナル貿易伸長、若ハ消  
極的輸出統制策ニ非ズシテ積極的ニ貿易ノ全面的調整ヲ企圖セザルベ  
カラザルヲ以テ之ガ效果ヲ確保センガ爲ニハ海外ノ産業貿易ニ關スル  
諸事情ヲ精細ニ調査シ周到ナル計畫ヲ樹立セザルベカラズ、之ガ爲ニ  
ハ貿易ニ關係アル關係各省トノ連絡モ益々密接ニスルノ要アリ。

上述セル如ク今後ノ貿易政策ハ其ノ内容方法ニ於テ從來ノ<sup>夫</sup>ト大ニ  
ニ趣テ異ニスルノミナラズ事務ノ分量ニ於テ著シキ増大ヲ豫想セザル  
ベカラズ。現在マデニ於テ事務編輯ノ事實ハ既ニ充分之ヲ認メ得ベキ  
處ニシテ試ニ之ヲ豫算額ニ付テ見ルニ昭和五年貿易局設置當時ニ於テ  
八百七拾六万四千圓ナリシモノガ昭和十二年度ニ於テハ六百拾貳万圓  
ニ上リ事務費及事業費ノミニ付テ見ルモ昭和五年ノ百五拾壹万七千圓  
ニ對シ昭和十二年度ハ五百六拾貳万八千九百圓ノ多キニ違セリ。又文  
書取扱件數ニ付テ見ルモ貿易局設置當時ニ比シ約三倍ノ多キニ上リ更  
ニ又通商上ノ諸案件、輸出組合關係事務、僑務管理關係事務及ビ輸出  
組合法、輸出補償法、重要輸出品取締法等ノ法律改正並ニ施行事務ハ  
一々計數的ニ之ヲ擷グルコト困難ナルモ事務編輯ノ事實ハ充分之ヲ證  
シ得ベシ。而シテ貿易政策ノ内容方法ノ複雜化ニ伴ヒ今後之等諸事務  
ハ益々量的ニ増大スルノミナラズ更ニ新ナル事務モ加ハルベキヲ以テ



貿易局ノ事務ハ益々輻輳スルニ至ルベシ。

然ルニ現在ノ貿易局ノ人員ハ昭和五年設置以來極メテ僅少ナル増加アリタルノミニシテ其ノ組織人員ヲ以テシテハ辛フジテ最近前後シテ續出スル通商障害打開ノ爲ノ其ノ場限リノ準備立案ニ應ジ得ルニ過ギズシテ確固タル方策ノ研究及之ガ爲ニ必要ナル海外産業貿易事情ノ充分ナル調査ハ殆ンド之ヲ爲スノ邊ナク到底今後ノ内外經濟情勢ノ推移ニ對應シ複雑困難ナル貿易政策ノ遂行ヲ期シ難シ。

仍テ現在ノ貿易局ノ機構ヲ擴充シ之ヲ商工省ノ外局トシ新ニ部課ヲ設ケ一面貿易振興、貿易調整ノ諸事務ノ刷新ヲ圖リ他面貿易諸政策ノ樹立實施上必要ナル調査企業事務ノ充實ヲ圖ルト共ニ貿易局長官ノ權限ヲ擴大シ貿易ニ關係アル事務ヲ兼ル他各省トノ連絡ヲ一層迅速且密接ニシ關係業者及民間諸團體ノ指導ニ遺憾ナカラシメ以テ有效適切ナル貿易政策ノ遂行ヲ期セントス。

之脚子貿易局官制ヲ制定セントスル所以ナリ。

而シテ貿易局ノ組織ハ長官ノモトニ庶務課及二部ヲ設ケ各部ニ三課宛  
 ヲ置キ關西方面ノ主要都市タル大阪市ニ貿易局直屬ノ貿易事務所ヲ設  
 ケ貿易局ノ事務ヲ分掌セシメ當業者若ハ團體ノ指導連絡ニ遺憾ナキヲ  
 期シ、與ニ參與ヲ置キ關係各省ノ連絡ノ圓滑ヲ圖リ又貿易行政進行上  
 民間有力者ノ意見ヲ徵スル爲メ顧問ノ制ヲ設ケ。

商工省外局トシテ貿易局ノ設置セラヘルニ伴ヒ貿易ニ關スル事務ハ同  
 局ニ移管セララルルヲ以テ之ニ從事スル職員ヲ商工省官制定員ヨリ減員  
 スルノ要アリ又別ニ嶺山災審ノ防止ノ爲之ニ從事スル職員ヲ設置スル  
 要アルヲ以テ商工省官制ヲ改正セントス

與ニ貿易局官制ノ制定ニ伴ヒ兼任文官特別任用令ヲ改正セントス

尙外務省所屬ノ所屬職務職員ハ現在外務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ海外ニ  
 於ケル職務ニ從事スルモ其ノ職務ノ内容ハ貿易ニ關係アル事項ニテ

多キヲ以テ商工大臣ガ右職員ヲ指揮監督シ得ルノ途ヲ開クノ要アリ  
區ノ別ニ舉行ノ勅令ヲ制定セントス、而シテ其ノ目的トスル處ハ貿易  
行政上必要ナル海外附價報ヲ徵シ彼我兩國ノ民間富業者若ハ國體ノ運  
絡轉旋ニ當ラシメ本邦貿易調整ノ方策ノ效果確保ニ協力セシメ以テ内  
外ヲ通ジ一貫セル貿易政策ノ圓滿ナル遂行ヲ期セントスルニ在リ。

貿易局官制案外三件ニ關スル説明書

本邦貿易ノ伸長ガ産業發展、財政強化及國防充實ノ必須條件ナルコトハ敢ヘテ續斷ヲ要セザルモ最近國內經濟情勢ノ變化ニ伴ヒ有效適切ナル貿易政策ノ樹立及之ガ圓滿ナル遂行ハ本邦經濟ノ難局打開ノ爲一層緊要性ヲ加ヘルニ至レリ。

而シテ我國産業貿易ノ特殊事情竝ニ世界各處ノ鎖國的政策ノ現狀ニ鑑ミルトキハ我國貿易政策ハ内容的ニ極メテ複雜多岐ニ亘リ且量的ニモ事務甚ダ輻輳セザルヲ得ズ。

然ルニ現在ノ貿易局ノ組織ヲ以テシテハ辛ウジテ最近前後シテ續出スル通商障礙打開ノ爲ノ應急的措置ニ應ジ得ルニ過ギズシテ確固タル方針ノ研究及之ガ爲ニ必要ナル海外産業貿易事情ノ充分ナル調査ハ殆ソド之ヲ爲スノ難ナク到底今後ノ内外經濟狀況ノ推移ニ對應シ複雜困難ナル貿易政策ノ遂行ヲ期シ難シ。

仍テ現在ノ貿易局ノ機構ヲ擴充シ之ヲ商工省ノ外局トシ新ニ部課ヲ設  
ケ一面貿易振興、貿易調整ノ諸事務ノ刷新ヲ圖リ他面貿易政策ノ樹  
立實施上必要ナル調査企畫事務ノ充實ヲ圖ルト共ニ貿易ニ關係アル事  
務ヲ掌ル他各省トノ連絡ヲ密ニシ關係營業者及民間諸團體ヲ指導シ以  
テ有效適切ナル貿易政策ノ遂行ヲ期セントシ之ガ爲貿易局官制ヲ制定  
セントス（別表（一）參照）

商工省外局トシテ貿易局ノ設置セラルルニ伴ヒ貿易ニ關スル事務ハ同  
局ニ移管セラルルヲ以テ之ニ從事スル職員ヲ商工省官制定員ヨリ減員  
スルノ要アリ又別ニ嶺山災害ノ防止ノ爲之ニ從事スル職員ヲ設置スル  
要アルヲ以テ商工省官制ヲ改正セントス（別表（二）參照）  
更ニ貿易局官制ノ制定ニ伴ヒ高等官官等俸給令及委任文官特別任用令  
ヲ改正セントス

日本標準規格JIS(18mm×257mm)

(別表)

(一) 貿易局官制

技	統	屬	技	理	統	導	書	部	長
	計			事	計	務	記		
手	官		師	官	官	官	官	長	官
	補								

		二				十			
十	三	十	七	一	一	一	六	二	
五	人	六	人	人	人	人	人	人	

商 工 省

(一) 職名

商工省官制中改正

(1) 貿易局關係(減員)

局長	書記官	事務官	技師	技師	技師	技師	技師
一人	二人	六人	六人	十三人	十人	二人	二人

(2) 鑛山災害防止(増員)

技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師
二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人

商工省

日本經濟學報第18卷第2號



勅令第 號

商工部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ二號ヲ加フ

七 工業ノ地方化ニ關スル事務ニ従事スル者

事務官 專任一人

技師 專任一人

屬 專任二人

技手 專任二人

八 人造綫維ノ使用奨励ニ關スル事務ニ従事スル者

屬 專任一人

修



技手 専任一人

第四條第三號中「技師 専任一人」ヲ「技師 専任五人」ニ、  
「技手 専任二人」ヲ「技手 専任十人」ニ改メ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

四 礦物資源ノ調査ニ關スル事務ニ従事スル者

技師 専任一人

技手 専任一人

五 石炭ノ品質別埋藏量及生産能力ノ調査ニ關スル事務ニ従事スル者

技師 専任一人

技手

專任二人

第四條ノ二及第四條ノ三ヲ削リ第四條ノ四ヲ第四條ノ二トス

第五條第二號中「技師 專任三十六人」ヲ「技師 專任四十六人」

ニ、「屬 專任二十四人」ヲ「屬 專任三十三人」ニ、「技手 專

任六十九人」ヲ「技手 專任九十人」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 審判及抗告審判未處分事件處理ニ關スル事務ニ從事スル者

事務官

專任二人

技師

專任四人

屬

專任二人

第五條ノ三 貿易局ニ左ノ職員ヲ置ク

一 貿易振興ニ關スル事務ニ從事スル者

事務官 専任三人

技師 専任三人

屬 専任九人

技手 専任三人

二 重要輸出品検査監督ニ關スル事務ニ從事スル者

輸出品監督官 専任三人 奏任

輸出品監督官補 専任九人 判任

三 工藝振興ニ關スル事務ニ從事スル者

屬 専任一人

第七條ニ左ノ一號ヲ加フ

六 石炭ノ品質別埋藏量及生産能力ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師

專任三人

技手

專任八人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

左ノ事由ニ由リ商工部内臨時職員設置制中改正ノ必要アルニ由ル

一 地方ニ於ケル人的及物的資源ヲ利用シテ工業ノ進展ヲ圖リ以テ地方農山漁村ノ振興ニ資センガ爲之ニ關スル事務ニ従事スル専任職員ヲ設置セントス（事務官一人、技師一人、屬二人、技手二人）

二 人造纖維ノ消費方面ニ於ケル對策ヲ講ジ其ノ使用奨勵ニ關スル諸般ノ事務ヲ行ハシムル爲新ニ専任職員ヲ設置セントス（屬一人、技手一人）

三 國內油田ノ徹底的開發ヲ促進シ原油ノ増産ヲ圖ランガ爲精密

ナル地質調査ヲ行フノ要アルヲ以テ之ニ従事スル職員ヲ増加セ  
ントス（技師四人、尉二人、技手八人）

四 東北地方ニ於ケル各種重要礦物ノ賦存狀況ヲ精査シ同地方礦  
業ノ振興ニ資スベキ基礎的資料ヲ整備スルノ要アルヲ以テ之ニ  
従事スル職員ヲ設置セントス（技師一人、技手一人）

五 従來ノ不合理ナル石炭ノ消費ヲ是正シ製鐵用及油化用特殊炭  
ノ確保ヲ期センガ爲石炭ノ品質別埋藏量及生産能力ノ調査ヲ行  
フノ要アルヲ以テ之ニ従事スル職員ヲ設置セントス（嶺山局  
技師一人、技手二人、嶺山監督局 技師三人、技手八人）

六 特許及登録ノ出願件數増加ノ趨勢ニ伴ヒ之ガ處分ノ爲職員ヲ

増加セントス（技師十人、尉九人、技手二十一人）

七 審判及抗告審判ノ請求件數増加ノ趨勢ニ伴ヒ之ガ處分ノ爲職  
員ヲ設置セントス（事務官二人、技師四人、尉二人）

八 輸出補償制度ヲ擴充シ海外市場調査ノ新規計畫ヲ實施スルト  
共ニ輸出品ノ検査監督ノ一層ノ強化ヲ圖ル爲之ニ關スル事務ニ  
従事スル職員ヲ増加シ又從來貿易統制ニ關スル事務ニ従事シタ  
ル職員ヲ經常職員ニ改メントス（増員 事務官二人、技師一人  
、尉五人、技手二人、輸出品監督官一人、輸出品監督官補三人  
、臨時職員ヨリ經常職員ニ改マルモノ 事務官三人、尉三人）

昭和十二年五月

貿易局官制案參考資料

貿易局



目次

- 一 貿易局官制制定理由説明書
- 二 貿易局組織要綱
- 三 貿易局分課規程（案）
- 四 昭和十二年度商工省所管歳出豫算中貿易局關係豫算（新規増を含む）
- 五 貿易局官制案關係豫算（新規増ノモノ）
- 六 商工部内臨時職員設置制中改正案關係豫算（新規増ノモノ）
- 七 貿易振興費（臨時部）中商工部内臨時職員設置制中改正案ニ關係  
ナキ豫算（新規増ノモノ）
- 八 昭和十二年度ニ於ケル貿易局新規施設事項一覽表

貿易局官制制定理由 明書

本邦貿易ノ伸長ガ財政強化、國防充實及産業發展ノ必須條件ニシテ殊ニ最近ノ國際經濟ノ動向並ニ我國内經濟ノ諸狀勢ニ鑑ミルトキハ確固タル貿易政策ノ確立實施ノ極メテ重要ナル所以ハ要ニ總論ヲ要セザルベシ而シテ國際經濟界ノ現下ノ情勢ニ對處シ能ク本邦貿易ノ進展ヲ圖ルノ方途ハ要之スルニ貿易統制ノ一層ノ強化ト郵品ノ海外販路ノ積極的開拓ノ二ツニ歸スベシト認モ之ガ方策ノ確立實施ハ本邦貿易ノ特殊性ト國際經濟ノ革新性ニ鑑ミ極メテ複雑多岐トナラザルヲ得ズ、今更ニ之ヲ詳説スレバ

我國從來ノ貿易統制ハ輸出業者ノ無謀ナル競争ノ弊害ヲ矯正シ相手國ノ物品阻止ノ措置ヲ豫防緩和シ或ハ求償主義ニ依リ個々ノ國トノ貿易ノ促進ヲ圖ル爲輸出業者ガ自治的ニ組合ヲ組成シ輸出品ノ品質、價金、數量等ニ關シ統一的ナル基準並ニ施設ヲ行ヒツツアリタルモ其ノ實績ニ付テ見ルニ遺憾ノ點ナシト云フヘカラズ殊ニ統制ノ實施ニ當リテハ

輸出業者相互間並ニ輸出業者ト生産業者トノ間ノ利害關係綜セルガ爲自  
治的ナル統制ニ委ヌルハ却ツテ統制ノ實行ヲ困難ナラシメ必ズシモ國  
家ノ大局的利盆ト相容レズ必要ニ應ジテ政府ガ積極的ニ之ニ介入スル  
場合モ起リ得ベク又國內工業原料ノ輸入先ノ偏倚狀態ヲ矯正シ貿易上  
ノ危險ヲ分散スルト共ニ貿易上ノ收支ノ均衡ヲ維持スル爲適當ナル輸  
入統制ヲモ行フ要アルベシ

又郵品ノ海外販路開拓ニ關シテハ新市場ノ開拓、舊市場ノ維持ニ關シ  
從來採リ來レル政策ヲ強化スルヲ要スルモノアルハ固ヨリ論ヲ俟タズ  
ト雖モ世界ノ諸國ガ相競ツテ所謂經濟的帝國主義ヲ行ヒ郵品ガ海外到  
ル處ニ制限ノ厄ニ遭遇シソツアル現状ニ鑑ミルトキハ貿易品種ニ  
應ジ、相手國ニ應ジ世界市場開拓ノ計畫ヲ確立スルコト最モ肝要ナリ  
即チ從來我國輸出品ハ纖維工業品及雜貨類ヲ主トセルモ海外市場ニ於テ  
最モ急シキ制限ニ遭ヒソツアルハ纖維工業品ナリ是ノ故ニ本邦貿易ノ  
市場開拓策トシテハ雜貨ノ輸出ヲ増進スルコトニ力ヲ注グベク更ニ進

ンデ所謂新興商品タル化學工業品及機械類ノ販路開拓ニ努メザルベカラズ、而シテ海外販路開拓ノ方策ト相俟ツテ所謂國內産業ヲ輸出産業化スル爲適當ナル指導助長ヲ爲スヲ要スベシ

上述セルガ如キ貿易上ノ諸方策ハ國內産業政策トノ密接ナル關聯ノ下ニ第一的ニ實行スルヲ要スルハ勿論ナルモ更ニ相手國ノ産業狀態、本邦トノ貿易關係及相手國ノ邦品ニ對スル態度ノ如何ヲモ考慮セザルベカラザルヲ以テ相手國ニ應ジ我國ノ貿易政策ハ自ラ異ラザルヲ得ズ

而シテ現下ノ複雑ナル國際狀態ニ對處シ能ク本邦貿易政策ノ效果ヲ擧ゲンガ爲ニハ海外ノ産業貿易事情ヲ精細ニ調査シ周到ナル計畫ヲ樹立シ之ガ圓滿ナル遂行ヲ要スベク其ノ一ツヲ缺クモ其ノ充全ノ效果ヲ期シ難ク之ガ實行ノ爲ニハ一方ニ於テハ海外貿易事情ノ調査ト之ニ基ク貿易政策ニ關スル計畫ヲ刷新スルト共ニ他面ニ於テハ關係業者ヲ指導監督シ之ヲ密接ナル連絡ヲ保チテ各般ノ業務ヲ迅速ニ處理スル爲ニ關係機關ノ充實ヲ勵ラザルベカラズ、然ルニ現在ノ貿易局ノ組織及人

員ヲ以テシテハ辛ウジテ最近前後シテ鑄出スル銅商障害打斷ノ爲ノ其  
ノ場限リノ準備立案ニ關ジ得ルニ過ギズシテ確固タル方針ノ研究及之  
ガ爲ニ絶對必妥ナル海外産業貿易事情ノ充分ナル調査ハ殆ンド之ヲ爲  
スノ邊ナク到底今後ノ國際經濟ノ推移ニ對シテ後難困難ナル貿易政策  
ノ遂行ヲ期シ難シ、加之貿易政策ノ相立遂行及貿易ニ關スル諸情報ノ  
蒐集、利用ハ他ノ諸省例之外務、大蔵、農林、逓信、拓務省等ニ重大  
ナル關聯ヲ有スルヲ以テ其ノ間ノ連絡ヲ一層密接ナラシムルノ要アリ  
仍テ商工省ノ外局トシテ新ニ貿易局ヲ設置セントス

昭和十二年五月

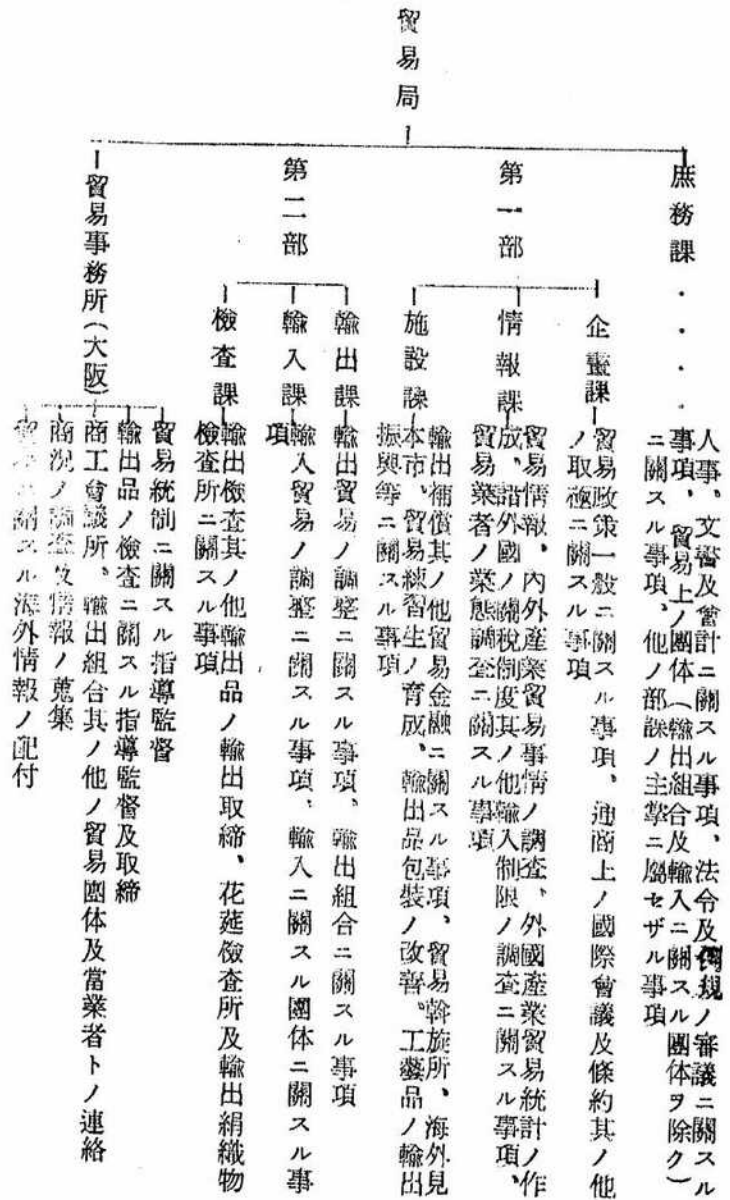
外局員易局組織要綱

易

局

局

一 外局貿易局組織案要綱



外局貿易局事務分擔次ノ如

部名	課名	分擔事項	書記官	事務官	監督官	理事官	統計官	技師	屬	輸出品	輸入品	統計	技手
庶務課	人事、文書、會計	他部課ノ主掌ニ屬セザル事項	一						三				
企務課	貿易行政上諸般ノ政策ノ調査研究ノ通商上ノ國際會議及條約其ノ他ノ取極	資源統制運用		三				一	七				
計													



情報課

計	海外經濟情報ノ蒐 集及送報	外國産業貿易事情 ノ調査	外國産業貿易資料 ノ蒐集、整備	關稅制度其ノ他ノ 輸入制限廢ノ調 査	國內産業貿易事情 ノ調査	國內産業貿易資料 ノ蒐集、整備	貿易業者ノ業態調 査	外國産業貿易統計 ノ作成

施設課

計	海外見本市其ノ他 海外ニ於ケル貿易 助長ニ關スル 事項	在外商社ノ信用調 査ノ要人名簿及 其ノ他ノ編纂 貿易練習生ノ育成 奨励	海外市場調査員 輸出品ノ包装ノ改 善指導	貿易品ノ紹介 工場品ノ輸出振興 及地方物産ノ輸出 商品化	商標等見本ノ蒐集 展示
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
一〇					
一一					
一二					
一三					
一四					
一五					
一六					
一七					
一八					
一九					
二〇					
二一					
二二					
二三					
二四					
二五					
二六					
二七					
二八					
二九					
三〇					
三一					
三二					
三三					
三四					
三五					
三六					
三七					
三八					
三九					
四〇					
四一					
四二					
四三					
四四					
四五					
四六					
四七					
四八					
四九					
五〇					



大阪貿易事務所

總計	實易調整ニ關スル 指導監督		商工會議所、 組合其他貿易 及當業者トノ 連絡	商況ノ調査及 情報ノ蒐集	貿易ニ關スル 海外 情報ノ配付 及貿易 週報ノ編纂	輸出品ノ検査 及取 締
	計	内				
計	—	—				
増新規	—	—				
12	—	—				
11	—	—				
10	—	—				
9	—	—				
8	—	—				
7	—	—				
6	—	—				
5	—	—				
4	—	—				
3	—	—				
2	—	—				
1	—	—				



外局貿易局分課並ニ職員配置表

一八五三六一一三 二七一一一五三一





九三三一一一 一五六二二

貿易局分課規程案

第一條

總務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 人事、文書及會計ニ關スル事項

二 長官ノ官印及局印ノ保管ニ關スル事項

三 國有財産及營繕ニ關スル事項

四 廳中取締ニ關スル事項

五 法令及例規ノ審議ニ關スル事項

六 貿易上ノ團體（輸出組合及輸入ニ關スル團體ヲ除ク）ニ關スル事項

七 他ノ部課ノ主掌ニ屬セザル事項

第二條

振興部ニ企業課、情報課及施設課ヲ置ク

第三條

企業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 貿易政策一般ニ關スル事項



二 貿易ニ關スル國際會議及條約其ノ他ノ取極ニ關スル事項

第四條 情報課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 貿易情報ニ關スル事項

二 内外産業貿易事情ノ調査ニ關スル事項

三 外國貿易統計ノ作成ニ關スル事項

四 諸外國ノ關稅、爲替管理及輸入制限ニ關スル制度ノ調査ニ關スル事項

五 貿易業者ノ業態調査ニ關スル事項

第五條 施設課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 輸出補償其ノ他貿易金融ニ關スル事項

二 貿易斡旋施設ニ關スル事項

三 海外見本市ニ關スル事項

四 海外商社ノ信用調査ニ關スル事項

- 五 貿易練習生ニ關スル事項
- 六 輸出品包裝ノ改善ニ關スル事項
- 七 工藝品ノ輸出振興ニ關スル事項
- 八 海外市場競争品見本其ノ他貿易ニ關スル參考品ノ蒐集展示ニ關スル事項
- 九 其ノ他貿易振興施設ニ關スル事項
- 第六條 勸業部ニ輸出課、輸入課及検査課ヲ置ク
- 第七條 輸出課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 輸出貿易ノ調整ニ關スル事項
  - 二 輸出組合ニ關スル事項
- 第八條 輸入課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 輸入貿易ノ調整ニ關スル事項
  - 二 輸入ニ關スル團體ニ關スル事項

三 不當廉賣防止ニ關スル事項

第九條 検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 輸出検査其ノ他輸出品ノ輸出取締ニ關スル事項

二 花筵検査所及輸出絹織物検査所ニ關スル事項

昭和十二年五月

昭和十二年度商工省所管歳出豫算中  
貿易局關係豫算（新増ヲ含ム）

貿  
易  
局

經常部

第二款 貿易局

五二六、七〇五圓

第一項 俸給

一一八、九八五圓

(長官一人、部長二人、書記官七人、事務官一三人、統計官一人、理事官一人、技師九人、屬三一人、統計官補三人、技師二〇人)

第二項 事務費

四〇四、六六八圓

第三項 不當廉賣審査委員會費

三、〇五二圓

臨時部

第一款 貿易振興費

四、五四三、四二六圓

第一項 俸給

四一、二五九圓

(事務官三人、輸出品監督官三人、技師三人、屬九人、輸出品監督官補九人、技師三人)

第二項	事務費	三六七、四〇二圓
第三項	補助費	九三六、七六五圓
第一目	商品陳列補助	二六六、八七九圓
第二目	國際見本市參加費補助	二七、八五三圓
第三目	重要輸出品検査費補助	一二三、七四八圓
第四目	貿易組合共同施設費補助	五〇、〇〇〇圓
第五目	貿易組合中央會補助	一〇、〇〇〇圓
第六目	貿易幹旋所費補助	三六六、〇〇〇圓
第七目	海外商社信用調査費補助	三八、〇〇〇圓
第八目	貿易練習生育成費補助	五四、二八五圓
第四項	輸出補償金	一、一九八、〇〇〇圓
第五項	輸入補償補助	二、〇〇〇、〇〇〇圓

第三款 工業振興及中小工業製品高級化施設費

五七、九〇一圓

第一項 俸給

(廳一人)

九八五圓

第二項 事務費

三四、四一六圓

第三項 補助費

二二、五〇〇圓

(工業品海外陳列會開催補助)

第十一款 調査及試験費

六、五〇〇圓

第二項 事務費

六、五〇〇圓

第十二目

滿洲其ノ他産業事情調査費

六、五〇〇圓

經常部計

五二六、七〇五圓

臨時部計

四、六〇七、八二七圓

合計

五、一三四、五三二圓

昭和十二年五月

貿易局官制關係豫算（新規増ノモノ）

貿易局



一、外局貿易局設置ニ要スル經費

現下ノ本邦貿易非常時ニ對處スル爲現貿易局ノ機構ヲ整備擴充シ新ニ部課ヲ設ケ一面貿易統制、貿易振興ノ諸事務ノ刷新強化ヲ圖リ他面貿易諸政策ノ樹立實施上必要ナル調査企畫事務ノ充實、能率化ヲ圖ルト共ニ之ヲ商工省ノ外局トシ官制上獨立セシメ貿易行政上ノ中樞機關タラシメ貿易ニ關係アル事務ヲ掌ル他各省トノ連絡ヲ密ニシ以テ有效適切ナル貿易政策ノ樹立實施ヲ期セントス依テ左記ノ經費ヲ要ス

金額 一、一、三、三〇圓

内

三、四〇一、六圓

俸

給

(長官一人、部長一人、書記官四人、事務官三人、貿易事務官一人、關八人)

八、〇三一、四圓 事務費

一 貿易業者ノ業態調査ニ要スル経費

近時ニ於ケル國際通商ノ趨勢ニ鑑ミテ本邦貿易ノ統制ヲ強化スルコトハ頗ル緊要ナレドモ本邦貿易業者ノ業態ハ種々難多ニシテ其ノ實情明確ナラサルヲ以テ適切ナル統制方策ノ決定及其ノ實施上不利不便頗ル多シ仍テ之等貿易業者ノ静態及動態ヲ調査シ以テ貿易統制其ノ他貿易政策樹立ニ資スル要アリ仍テ左記ノ経費ヲ要ス

金額 20,000 圓

内 調査員 1 人、助手 2 人

事務費

計畫ノ大要次ノ如シ

調査項目

- 1 貿易業者ノ營業種目（輸出、輸入、製造兼業等）
- 2 貿易業者ノ創業ノ時期
- 3 貿易業者ノ國籍及事務所又ハ營業所若ハ工場所在地
- 4 貿易業者ノ資本金額、組織及其ノ加入セル輸出組合其ノ他ノ団体名
- 5 輸出狀況
  - イ、總額
  - ロ、商品別輸出額（主要市場別）
  - ハ、輸出港
- 6 輸入狀況
  - イ、總額
  - ロ、商品別輸入額（主要市場別）

ハ、輸入港

7 輸出品ノ仕入又ハ生産状況

8 輸入品ノ販賣又ハ使用状況

9 其他

調査方法

關係道府縣ニ照會シ貿易業者ニ關スル諸種ノ調査ヲ行フト共ニ係官  
ヲ主要地方ニ出張セシメテ資料ノ蒐集ヲ爲シ斯クシテ調査セル事項  
ヲ貿易統制其ノ他貿易政策上ノ見地ヨリ常時研究シ隔年基本的調査  
ヲ行フ豫定ナリ

調査ノ公表

「本邦貿易業態調査」其ノ他必要ナル統計、資料等ヲ印刷ニ附シ刊  
行ス

事務分擔

屬 一人

技手 一人

技手 一人

調査票ノ集計ニ關スル事務ニ従事ス

輸出業者ノ取扱商品ノ分類検査ニ關スル事務ニ

従事ス

輸入業者ノ取扱商品ノ分類検査ニ關スル事務ニ

従事ス

一 重要貿易相手國ノ貿易統計整備細算ニ要スル經費

現下ノ變轉常無キ海外經濟情勢裡ニ於テ之ニ對應善處シテ克ク我貿易ヲ維持發展セシメシムルガ爲ニハ我國重要貿易相手國ノ貿易情勢ノ變動ニ留意シ之ガ適確ナル貿易統計ヲ總ヘズ精確調査シ置クノ要アル處現茲我國ニ於テハ之ガ充分ナル資料ヲ缺クテ以テ我重要貿易相手國ノ月刊貿易統計ヲ廣ク蒐集整備シ茲該國ノ一般貿易ノ重要相手國別貿易ノ重要商品別貿易等ニ我顧トノ貿易關係ニ付キ月々ノ變化ヲ一目睹然タラシムル貿易統計ヲ編纂シ我貿易政策運用上ノ資料タラシムトス

右テ左記ノ經費ヲ要ス

金額 五三、一〇九圓

内 九四九、一圓 俸給 (統計官一人、技師一人、屬一人)

四三六、一八圓 事務費 (統計官補三人、技手三人)

計劃ノ大要

一 資料ノ蒐集

(1) 本邦主要貿易相手國三十箇國ニ付當該國所在ノ貿易通信員、貿易  
幹旋所及在外公館ヲ通ジ又ハ直接當該國政府ヨリ貿易統計表ハ月  
表、年表一ヲ蒐集ス

(2) 世界主要貿易國及我貿易調整上特ニ重要視スベキ相手國ノ貿易情  
勢ニ關シテハ一般貿易又ハ本邦トノ重要貿易商品ニ付スル輸出入  
統計ヲ當該國所在ノ貿易通信員、貿易幹旋所及在外公館列テ定  
時ヲ以テ報告セシム

(3) 右統計ニ現ハレタル重要ナル變化ニシテ其ノ變化ノ原因ニ關シ特  
ニ調査ヲ要スベキモノニ就テハ該國所在ノ貿易通信員、貿易幹  
旋所及在外公館ヲシテ至急調査ノ上覽察ヲ以テ報告セシム

二 資料ノ整備

蒐集シタル資料ハ之ヲ整理シ當局及學者ノ利用ニ供ス

重要相手國貿易統計ノ通報及編纂

(イ) 蒐集シタル資料中特ニ迅速ニ發表ヲ要スルモノハ人手ノ都度之ヲ關係方面ニ通報ス

(ロ) 蒐集シタル資料ニ基キ當該國ノ一般貿易、重要相手國別貿易、重要商品別貿易並ニ我國トノ貿易ニ關スル統計表ヲ編纂シ之ヲ關係方面ニ配布ス

専務分擔

統計官	一人	本邦重要貿易相手國ノ貿易統計ノ整備編纂ニ關スル専務全般ニ從事ス
技師	一人	重要貿易商品統計整備編纂ニ關スル専務ニ從事ス
屬	一人	庶務ニ従事ス



統計官補

三人

左ノ分擔ニ從ヒ貿易統計ヲ備編纂事務ニ從  
事ス

一 歐米諸國

一 亞細亞諸國

一 近東阿弗利加、中南米諸國

技手

三人

左ノ分擔ニ從ヒ貿易統計ヲ備編纂事務ニ從  
事ス

一 纖維工業品

一 農水産品

一 其ノ他商品

昭和十二年五月

商工部内臨時職員設置制中改正案關係總算（新規採ノモノ）

貿易局

輸出補償法ニ關スル經費ノ増加  
輸出補償法ハ昭和五年度ヨリ新市場ノ開拓並ニ本邦輸出業者ニ對シ  
貿易金融上ノ便益ヲ附與スル目的ヲ以テ實施セラレタル處近年邦品  
ノ進出ニ對シ諸種ノ彈壓愈々加ハリ就中各國ニ於テ施行セル爲替管  
理ノ爲本邦輸出形決濟金ノ凍結スルモノ續出シ之ニ依リ蒙ル輸出  
業者ノ損失蓋シ大ナルモノアリ依テ昭和十二年度ヨリハ輸出補償法  
改正ノ上手形支拂人ニ於テ豫メ供託シタルモノニ對シ一應銀行ニ對  
シ之ガ損失ヲ補償シ後日年二分ノ利息ヲ附シ返還ヲ爲シ得ルノ途ヲ  
講ジ以テ輸出業者ニ對スル貿易金融上ノ圓滑ヲ圖ルト共ニ政府ノ補  
償限度ヲ甲乙兩種共一割方引上ケ同時ニ補償料率ノ引下ヲ爲シ他方  
舊市場ニ於ケル本邦商權ノ維持確立ヲ策スル爲指定地域ヲ擴張シ漸  
次之ヲ全世界ニ及ボシ以テ本邦輸出貿易ノ伸張ニ資セントス  
尙本年度ヨリハ蘇聯邦ノ外中華民國其ノ他ノ國ノ政府機關及公共團

体等ノ注文ニ因ル本邦重工業品等ノ輸出ニ對シ之ガ補償ノ途ヲ講ゼン  
トス依テ左記ノ經費ヲ要ス

金額 九九六八三八圓

内 四三七六圓

八四六二圓

九八四〇〇〇圓

俸給（事務官一人、屬三人）

事務費

輸出補償金

参考

職員事務分擔

事項	項目	事務官	屬
外國ノ爲替管理ニ因ル補償豫防及返還事務	中華民國其ノ他ノ駐文ニ依ル重工業品ノ輸出ニ關スル補償事務	—	—
指定地域ノ擴張ニ伴フ補償手形ノ審査事務			—
計			三

一 海外市場調査ニ要スル經費

現今ノ如キ對外貿易硬塞時代ニ於テハ一面本邦商品ノ積極的進出ヲ圖ルト共ニ他面輸出、輸入ノ兩方面ニ於ケル貿易ノ全面的統制ヲ爲シ本邦對外貿易ヲ現下ノ海外狀勢ニ適應セシムルノ要アル處之ガ周到ナル計劃及ビ圓滿ナル遂行ノ爲ニハ國內産業事情ヲ詳ニスルト共ニ海外市場ニ關スル諸般ノ事情ヲ知悉スルヲ要ス、即チ市場ノ購買力ノ構成、規度及消長、商品ノ市場適應性商取引ノ形式條件等ヲ探究シ以テ輸出振興ノ指針確立ニ資シ、或ハ相手國産業ト本邦産業トノ依存狀態、競争狀態ヲ比較商量シ相手國ノ産業保護政策ノ動向ヲモ調査研究ノ上有效適切ナル具體的方策ヲ樹立シ計劃的ニ各種ノ施設ヲ講スルノ要アリ而シテ之ガ實行ニ當リテハ先ヅ第一計劃トシテ市場別ニ主トシテ民間専門家ヨリ成ル調査團ヲ派遣シ右ニ關スル基本的調査ヲ徹底的ニ行ハシメントス

仍テ左ノ經費ヲ要ス

金額 二六四三二六圓

内

七二七四圓 俸給 (事務官一人、技師一人、屬二人、技手二人)

二五七〇五二圓 事務費

事務分擔

計	事務官	技師	屬	技手
調査一般ニ關スル事項	一			
技術ニ關スル事項		一		
亞細亞、阿弗利加及大洋洲地方ニ關スル事項			一	
歐羅巴、北米、中陸米地方ニ關スル事項			一	
機械、化學工業及雜工業品ニ關スル事項				一
纖維工業品ニ關スル事項				一
計	一	一	二	二



ニ 計畫ノ大要次ノ如シ

調査團ノ派遣

(1) 初年度計劃トシテ派遣スベキ地方

國名 擔當地

(1) 南洋班 比律賓、佛印、暹羅、英領馬來、ビルマ、英印、蘭印、濠洲

(2) 近東阿弗利加班 アフガニスタン、ベルチスタン、ヘルシヤ、土耳其、メソポタ  
ミヤ、シリヤ、パレスチナ、阿弗利加

(3) 中南米班 中米諸國(メキシコ、キューバ、ハイチヲ除ク)、南米諸國

(4) 第二年度計劃トシテ派遣スベキ地方

(1) 支那班 支那

(2) 歐羅巴班 バルカン諸國、北部歐羅巴、其ノ他

(3) 北米班 加奈陀、北米合衆國、メキシコ、キューバ、ハイチ

調査團ノ構成

調査團員ハ各班八名トシ民間ノ専門家ニ囑託シ商品別ニ擔當シ販

路擴張ニ關スル調査ノ實效ヲ期ス  
關係官吏ハ各班ニ一名宛ヲ隨行セシメ調査計劃及之ガ實行ノ指導  
監督ニ當ラシム

調査期間

各班ノ調査期間ヲ六ヶ月トシ隔年派遣ス

調査項目

(一) 新興輸出商品ノ販路調査

(1) 需要ノ程度及邦品ノ輸出可能性

(2) 邦品ト外國品トノ品質上ノ價格上ノ競争狀態

(3) 邦品ノ品質上ノ取引上改善ヲ要スル點

(4) 當該國ニ於ケル邦品制限措置ノ實狀

(5) 邦品ノ輸出増進ニ關スル適當ナル施設

(6) 輸出振興上參考トナルベキ商品見本ノ蒐集

- (二) 海外市場ノ一般的調査
  - (1) 一般景氣及其ノ變動
  - (2) 産業機構及其ノ變動
  - (3) 企業資本系統
  - (4) 産業貿易政策

重要輸出品検査監督取締ニ要スル經費

重要輸出品ノ粗製濫造ヲ防止シ本邦品ノ聲價ノ維持向上ヲ圖ル爲從來本省ニ監督職員ヲ置キ組合等ノ各検査機關ニ關シ嚴重ナル監督ヲ爲シ來リタル處重要輸出品取締法ノ施行ト共ニ右検査監督事務ノ外更ニ取締事務ヲモ行フコトト爲リタル爲現在ノ監督職員ノミニテハ到底監督取締ノ周到ヲ期シ難キヲ以テ更ニ職員ヲ増置シ主要生産地ニシテ主要輸出港タル大阪市ニ駐在セシメ以テ法令施行ノ完璧ヲ期セントス依テ左記ノ經費ヲ要ス

金額 一四一五八圓

内 四三七圓 俸給(輸出品監督官一人、輸出品監督官補三人)

九七八四圓 事務費

計 畫 ノ 大 要

重要輸出品ノ検査監督ニ付テハ從來本省ニ監督職員ヲ置キ隨時検査機關ニ出張シテ之ヲ行ハシメ來リタル處重要輸出品取締法ノ施行ニ依リ  
 検査監督事務ノ外新ニ取締事務ヲモ施行スルコトト爲リタルヲ以テ之  
 ガ徹底ヲ期スル爲メ監督職員ヲ増員シ主要生産地ニシテ主要輸出港タ  
 ル大阪市ニ駐在セシメ常ニ各検査機關ノ検査狀況ヲ監督スルト共ニ一  
 向不正輸出ノ取締ヲ爲ス必要アルヲ以テ左記ノ通監督職員ヲ駐在セシ  
 メ以テ検査監督並ニ取締ノ遺憾ナキヲ期セントス

記

駐 在 地

職 員 數

大阪(貿易局大阪事務所)

輸出品監督官

一人

輸出品監督官補

三人

貿易統制費（臨時部ヨリ經常部へ組替）

金額

六六一四八圓（皆減皆増）

内

八六九七圓 俸給（事務官三人、屬三人）

三七四五一圓 事務費

貿易振興費（臨時部）中商工部内臨時職員設置制  
中改正案ニ關係ナキ豫算（新規増ノモノ）

一、貿易幹旋所ノ設置ニ關スル事項 經費

現在ノ商品陳列館ハ其ノ設置箇所僅少ニシテ且一箇所ニ固定シ其ノ經營團體モ貿易ノ消長ニ直接ノ利害關係薄ク貿易關係業者トノ連絡モ兎ニ角圓滑ヲ缺キ其ノ使命ノ遂行上遺憾ノ點甚ダ多キヲ以テ現在ノ商品陳列館制度ヲ改メ新ニ貿易幹旋所制度ヲ設ケ上述ノ缺陷ヲ補正セントス、即チ貿易幹旋所ヲ本邦貿易發展上樞要ナル箇所ニ設置シ之ヲ從來ノ如ク一箇所ニ固定セシムルコトナク常ニ擔當地方ヲ移動セシメ且經營團體モ關係業者ニ依リ組織セラルル貿易組合中央會ヲシテ之ニ當ラシメ其ノ充全ノ效果ヲ期セントス

貿易幹旋所費補助 三六六、〇〇〇圓

輸出組合中央會ニ交付スル補助金（六ヶ月分）



計画ノ大要次ノ如シ

(一) 貿易組合中央會ニ補助金ヲ交付シ該團體ヲシテ貿易斡旋所ノ經營ニ當ラシム

(二) 貿易組合中央會ノ貿易斡旋所ノ經營ニ當リテハ外局貿易局ニ於テ監督指導ヲ爲ス

(三) 貿易斡旋所ノ設置豫定箇所

初年度計劃トシテ設置スベキ豫定箇所次ノ如シ

漢口(又ハ重慶)、盤谷、唐地、カルカツタ、ベイルト、ダ  
ーバン、アレキサンドリヤ、カサブランカ、ロスアンゼルス  
(又ハ桑港)、サンチャゴ、ベノスアイレス

(四) 貿易斡旋所ノ事業

- (イ) 商取引ノ斡旋紹介
  - (ロ) 取引紛争ノ調停
  - (ハ) 本邦商品及産業經濟事情ノ紹介宣傳
  - (ニ) 意匠・商標ノ海外登録事務ノ斡旋
  - (ホ) 本邦輸出統制ノ斡旋協力
  - (ヘ) 貿易事情ノ調査通報
  - (ニ) 特定商品ノ調査通報
  - (イ) 其ノ他必要ナル事項
- (資料ノ蒐集・展示、機關雜誌ノ發行等)

海外商社ノ信用調査ニ關スル事項

近年本邦貿易ノ伸張ニ伴ヒ相手國市場ノ擴張ヲ見ルト共ニ相手國商社中往々不良ノ業者多ク之等トノ取引ニ依リ本邦商社ノ受ケタル損害尠カラザルモノアリ之ガ爲本邦貿易ノ健全ナル發達ニシテ阻害セラレタル事例頗ル多シ仍テ此種損害ヲ未然ニ防止スル爲貿易組合中央會ヲシテ海外商社ノ信用状態ヲ調査シ海外ニ於ケル不良商社ノリストヲ作成セシムルト共ニ當業者ヨリノ依頼ニ應ジ海外商社ノ信用ヲ調査セシムル爲貿易組合中央會ニ其經費ノ一部ヲ補助セントス

海外信用調査費補助 三八、〇〇〇圓

輸出組合中央會ニ交付スル補助金

一 貿易練習生ノ育成獎勵ニ關スル事項

本邦商人中有爲ナル者ヲシテ海外ニ於ケル商業事情ニ精通セシメ將來貿易業ノ中堅タルベキ者ヲ育成シ本邦商品ノ販路開拓、外國間貿易ニ從事セシムルコトハ我國貿易ノ發展上最モ有效適切ナル施設ナリトス即チ右目的ヲ達成スル爲メ貿易組合中央會ニ補助金ヲ交付シ右團體ヲシテ適當ナル者ヲ選定セシメ之ヲ海外ニ送り一定期間在外邦商又ハ外商ノ下ニ住込マシメ貿易上ノ實務ニ習熟セシムルト共ニ實務終了ノ際ニハ適當ナル地點ニ於テ營業ヲ開設セシメ以テ我が商圏ノ發展ニ貢獻セシムトス

貿易練習生育成費補助 五四、二八五圓

輸出組合中央會ニ交付スル補助金（九ヶ月分）

計劃大要次ノ如シ  
 一 本計劃ヲ實施スベキ団体  
     輸出組合中央會  
 一 邦商派遣地及員數

總計	中南米	近東	阿弗利加	印度	歐洲	派遣方面	派遣地	員數
二五	九	九	四	三	三	シドニ	カルカッタ、ボンベイ、カラチ、ラングーン	三
						アレキサンドリヤ、モンバサ、ダーバン、カサ		九
						ブラシリア、イスタンブル		九
						メキシコ、パナマ、サンチヤゴ、リマ、リオデ		九
						ジャネイロ、ブエノスアイレス		九

三 貿易練習生ノ任命

貿易練習生ハ輸出組合中央會ニ於テ銓衡ノ上商工省ノ承認ヲ得テ輸出組合中央會會長之ヲ任命ス

四 貿易練習生ノ練習期間

本邦出發ノ日より起算シ向フ三ケ年トス但シ必要ニ應ジ若干延長スルコトアルハシ

五 貿易練習生ノ義務

貿易練習生ハ輸出組合中央會及練習地管轄ノ政府在外機關ノ指揮監督ヲ受ケ練習期間中練習地貿易商社ノ店舗ニ住込ミ又ハ通勤シ以テ誠實ニ貿易事務ニ付練習ヲナス

六 貿易練習生委嘱貿易商社ノ選定

貿易練習生ノ就テ練習スベキ貿易商社ハ練習地ニ於ケル邦商タルト外商タルトニ拘ラズ練習地管轄ノ政府在外機關及本會經營貿易斡旋

所等ノ協力斡旋ニ依リテ之ヲ定ム

但シ應募者ノ關係入、推薦團體、其ノ他ノ斡旋ニ依リテ定ムルコト

アルベシ

七 貿易練習生ニ對スル補助

貿易練習生ニハ左ノ如キ渡航費補助金、練習手當巡回視察費補助金  
等ヲ支給ス

昭和十二年度ニ於ケル貿易局新規施設  
事項一覽表

- 一 貿易調整法及貿易組合法ノ制定ニ關スル事項
- 一 重要輸出品検査監督取締強化ニ關スル事項
- 一 貿易業者ノ業態調査ニ關スル事項
- 一 重要貿易相手國ノ貿易統計整備編纂ニ關スル事項
- 一 輸出補償法ノ擴充ニ關スル事項
- 一 海外市場調査ニ關スル事項
- 一 貿易輸送所ノ設置ニ關スル事項
- 一 海外商社ノ信用調査ニ關スル事項
- 一 貿易練習生ノ育成獎勵ニ關スル事項